原子力規制委員会記者会見録

● 日時：令和3年9月22日（水）
● 場所：原子力規制委員会庁舎　13階B･C･D会議室

● 対応：田中委員長代理

＜質疑応答＞

○司会　それでは、定刻になりましたので、ただいまから9月22日の原子力規制委員会定例会見を始めます。

本日は更田委員長が海外出張に出られておりますので、田中委員長代理のほうで対応させていただきます。

それでは、皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから、質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。

エンドウさん、お願いします。

○記者　新潟日報のエンドウと申します。よろしくお願いします。

東電の柏崎刈羽原発についてなんですけれども、先ほど東電が独立検証委員会から報告書を受け取りまして、その際に小早川社長が、原点に立ち返り発電所を一から作り直す覚悟で取り組んでいきたいというふうな発言をされております。

そもそも、田中委員長代理になかなかこの質問をする機会がないのであれなんですけれども、この一連の東電の問題をどう思っていらっしゃるか、先ほどの小早川社長のお言葉についてどのように思われているかというのを、お聞かせいただけますか。

○田中委員長代理　ありがとうございます。先ほどの社長の内容を、私はよく認識してはいないんですけれども、この一連のことについて、どういうふうに考えている、感じているかというふうな質問だと理解いたしました。

IDの不正問題とか、核物質防護設備のいろんな喪失というか、機能喪失とかあったんですけれども、やっぱりそういうふうな核セキュリティに絡むようなことに対しても、しっかりとした対応をしていくということが、言ってみれば核セキュリティ文化と言ってしまって、これはそのままなんですけれども、書かれているようなことだと理解してございます。

まずは。

○記者　分かりました。

その上でなんですけれども、報告書が4時5分に提出ですけれども、改めてどのような再発防止策ですとかを望むですとか、その辺り、お考えはありますでしょうか。

○田中委員長代理　今日の夕方、報告書を、我々というか、規制庁の人が受けるというこ

とを認識ということで、まずはその内容を十分に読んでから考えたいと思いますし、また、これまでも数か月間、一応、現場検査、ずっとやってきたんですけれども、またこの報告書を読んで、さらにというか、次のステップとしてどういうふうな検査を行っていけばいいのかというふうなことは重要でございます。

我々としても、検査結果を踏まえてどういうふうな対応をするかというふうなときに、またその対応を考えたいと思います。まだ現時点においては、これからどういうふうな検査をやっていけばいいのか等について、検査チームといいますか、規制庁のほうから報告を受けたいと思います。

○記者　分かりました。

○司会　ほかに御質問はございますでしょうか。

では、カワムラさん、お願いします。

○記者　朝日新聞のカワムラと言います。よろしくお願いします。

今の質問に関連してなんですけれども、本日夕方に、セキュリティ、テロ対策の不備に関しては報告書が提出されます。

一方で、この半年を見ていると、柏崎刈羽原発では、完了したと言っていた工事が大量に実は終わっていませんでしたというような事象が見つかったり、最近では規制庁の検査官が気づいて発覚した火災感知器を正しい位置に取り付けていなかったりというような、セキュリティだけじゃなくて、セーフティの面でもちょっと疑念を抱くような事象が相次いでいるんですけれども、その辺り、御見解をお聞かせください。

○田中委員長代理　溶接部の不適合、あるいは火災感知器の問題等についても、事業者から事務局が報告を受けていると。また、我々のほうとしても、原子力規制検査においてしっかりと見ていくというふうなことでございます。今の質問に関して、どういうふうな感じなのかというふうなことでございまして、それは言ってみれば、核セキュリティだけではなくて、原子力安全全体にといっても、やっぱり原子力安全文化とセキュリティ文化について、しっかりと敏感性を持ってやっていっていくというふうなことを事業者において重要だと感じております。

○記者　ありがとうございます。

あと、火災感知器の件は、また詳しくは東電が夕方発表すると思うんですけれども、例えばこういう事象って、他の原発でも見られるのかどうかということと、あと、例えばほかの原発に水平展開して問題を探っていくとか、そういった部分、もちろん委員会で合意とかもあると思うんですけど、御見解があればお願いします。

○田中委員長代理　こういうふうなことというのは、東電においては、使用前事業者検査があって分かってきたことかと思うんですけれども、それに対して、我々は、先ほど申し上げましたが、原子力規制委員会はどういうふうに見ていくかというような点だと思いますし、またこういうような状況を、ほかの電力会社もニュース等を見て分かってい

ると思いますので、しっかりとした対応がされていくもの、あるいはされていくべきものと考えます。

○司会　ほかに御質問ございますでしょうか。

では、ヒロエさん、お願いします。

○記者　共同通信のヒロエと言います。

僕も今回の報告書に関してなんですけれども、田中委員長代理は、報告書は何に注目して読みたいというふうに考えていらっしゃいますか。

○田中委員長代理　何に注目と言いましょうか、こちらとして今年の3月23日に、半年か6か月内に報告を求めたのですけれども、そこで要求している事項がございます。

今、ちょっと見ているのですけれども、直接原因の特定とか、根本的な原因の特定、並びに安全文化、核セキュリティ文化要素の劣化兆候の特定を行い、その内容を踏まえた改善措置活動の計画と書いていまして、言ってみれば、私、あるいは我々としては、この辺のところに注目して、報告書を見ていくということだと思います。

○記者　すみません、それとあと代替措置についてなのですけれども、更田委員長は非常にお粗末というふうに感想を述べられていたのですけれども、委員長代理としては、代替措置の報告を最初に受けたときはどのような印象を持たれましたか。

○田中委員長代理　核セキュリティ的な、例外な防護措置とか等々と代替措置なのですけれども、やはりそれは、事業者とすれば、そもそも何が求められているのかということを認識して、代替措置、あるいは代替措置の有効性が大事かと思います。

個別のことについて、私とすれば十分状況が分かっていないところがありますけれども、ものによれば、不十分だったものもあるかと思います。

○記者　ありがとうございます。

○司会　それでは、エムラさんお願いします。

○記者　読売新聞のエムラと申しますが、私も柏崎刈羽の今日の報告書の関係で、テロの設備の機能喪失があって代替措置が不十分だったというのは、誰かが、組織の誰かが判断して最終的になったと思うのですけれども、それが、その判断した人間の責任とか、もしくは組織の責任なのか、そこら辺のところの、基本的な規制委員会としての考えを教えてください。

○田中委員長代理　はい。今の質問は、人の問題なのか組織の問題なのかというふうな質問だと私は理解いたしました。これはなかなか、解くというのは難しいのかも分かりませんけれども、やはり、両方の問題というのもあるかと思います。

○記者　ごめんなさい、情報の問題というのは。

○田中委員長代理　人と組織と、両方ということ。

○記者　ごめんなさい、両方ですね。

やはり組織の問題としては、責任としては、やはり組織の長に帰属するという理解でよろしいでしょうか。

○田中委員長代理　こういうふうなセキュリティ等に対して、トップの人がどういう理解をして、どういう指示をしているのかというふうなこともありますし、またセキュリティ情報であるので、いろんな、なかなか皆さんで共有しにくいときもあるか分からないのですけれども、そのセキュリティ情報の重要性とかですね、どこまでが秘密にしなければいけないかよく分かっていって、具体の対応をするというふうなことかと思いますが、そういう意味で両方と言いました。

○記者　分かっていて不適切な対応をするのは論外ですし、分かっていないというのも問題があると、両方の意味で問題があるという理解でよろしいでしょうか。

○田中委員長代理　はい。

○記者　ありがとうございます。

○司会　ほか、御質問はございますか。

それでは、シゲタさんお願いします。

○記者　NHK、シゲタと申します。

せっかく、田中先生が出られているので聞いてみたいのですけれども、東京電力を見てみると、不祥事を繰り返してきた歴史があります。そのデータ改ざんとかトラブル隠しということが起きると、その都度その原因分析を行ったり、組織風土の改善等々、東京電力はその改善策を講じてきましたが、やはり問題が起きてしまうと。

田中先生、長く原子力に携わってきた身として、東京電力の体質というものをどういうふうに見ているか、お考えをお伺いしてもよろしいでしょうか。

○田中委員長代理　なかなか難しい質問をいただいたかと思います。

いろんな電力会社によってその体質が異なる、考えが異なるというのはあって当然でございますし、その特徴を踏まえながら、どういうふうにして、原子力だったらその安全を保っていくのかということが大事でございます。

ということで、東京電力としても、それなりにやってきたんじゃないかと思いながらも、こういうふうにいろんなことが、そこにもありました。起こると、どこかのところ、抜けがあったのではないかなと思うところでございます。

そういうふうなことを、やはり東京電力としても、あるいは各電力会社としても、その電力会社の特徴を踏まえて、踏まえた上でどういうふうにして安全を保っていけばいいのか、安全にやっていけばいいのかについて考えることは重要かと思います。

まずそういうことで、全体的な感想でございます。

○記者　その上でなのですけれども、やはり東京電力がこういった問題を繰り返したりする中で、いずれ原子力発電所を動かしたいというフェーズになったときに、本当に大丈夫なのかなという疑念なり不安というのはついてくるものだと思うんです。

そういったものを避けるためというわけではないのですけれども、その報告書が上がってきたときに、皆様は今後どういうふうに検査に望まれていくのか、その思いや意気込みについてお伺いしてもよろしいでしょうか。

○田中委員長代理　具体に今回の報告書を踏まえて、またこれまでの現場確認、検査等を踏まえてどういうふうにして語っていくのかというふうなところは、もちろん今回の報告書も踏まえつつ、今後どういうところに力点・重点を置いて検査していくのかということでございますが、前の質問に絡めたような、安全文化とか、結局文化のところはどう見るのかというのは、口では簡単かも分からないのですけれども、実際に彼らが、それはどういうふうに理解して、踏まえてやっているのかというのは、もうちょっと、彼らとしても、我々が見ていくほうとしても、一歩踏み込んだ形で見ていかないといけないのかなと思います。

○記者　ありがとうございました

○司会　ほかに御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の会見は以上としたいと思います。ありがとうございました。

－了－